

標準化人材教育 パイロットプログラム 戦略人材

筑波大学ビジネスサイエンス系

戦略人材パイロットプログラムの全体スケジュール

令和6年度パイロットプロジェクトの構想

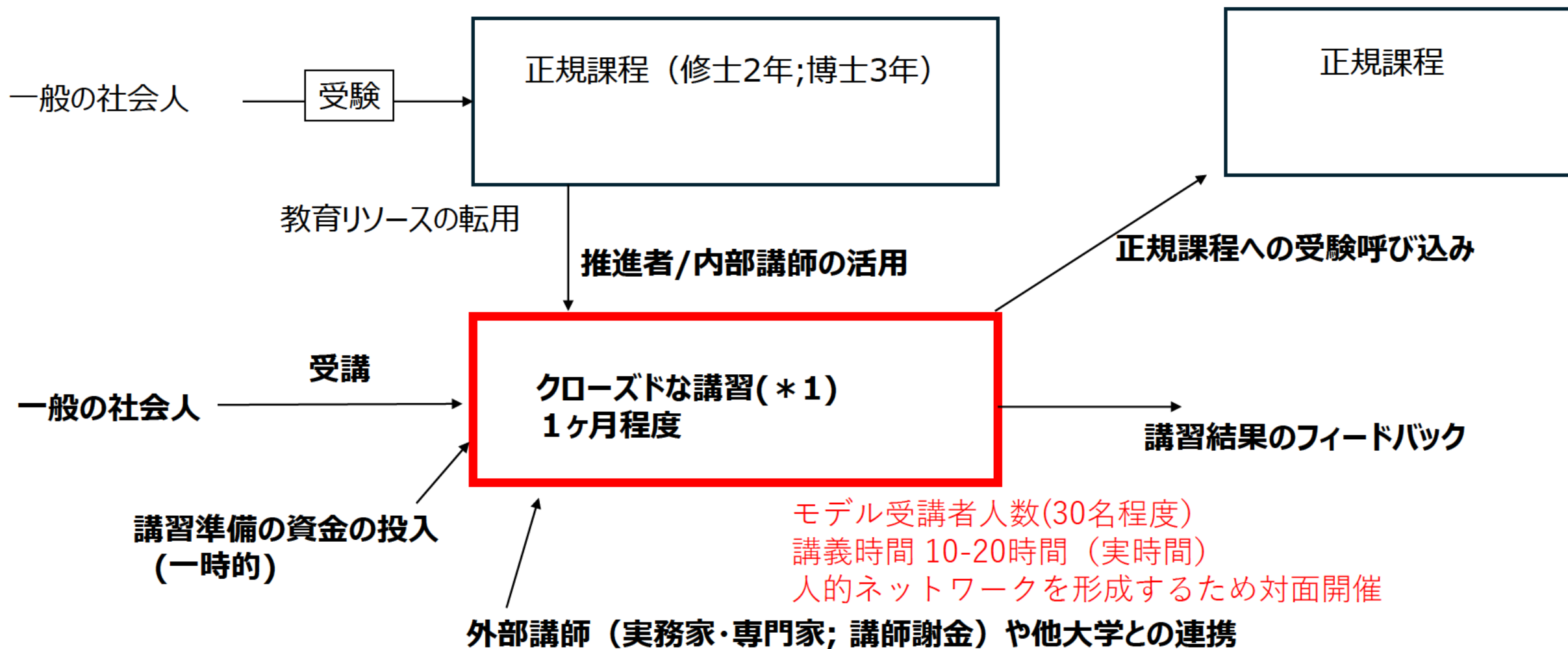
- 令和6年度においては、実際に教育プログラムの組成及び検証を行うほか、ターゲットとなる層の探索、正規課程への引き込みに向けた調査、自走に向けて必要な検討を実施

【実施想定内容】

- 受講者ニーズの把握、ターゲット層の探索
 - ー 当該委員会関係者等にあたり、受講見込みのあるターゲットを探索。
- プログラムの組成及び実施、検証。実施に向けた講師の探索・連携等体制の検討
 - ー プログラムの組成し（エッセンスを絞ったもの）、試行する。その際、アンケート調査を取り、更なるブラッシュアップ等検討を行う。また、大学や外部機関との連携も図る。
- 自走に向けた議論・ビジネスモデルの構築
 - ー 自走に向けて必要な予算感、必要な連携先等必要な事項を抽出・検討。
- 正規課程への引き込みに向けた検討
 - ー 継続的なプログラムとするために、正規課程との連動を検討。

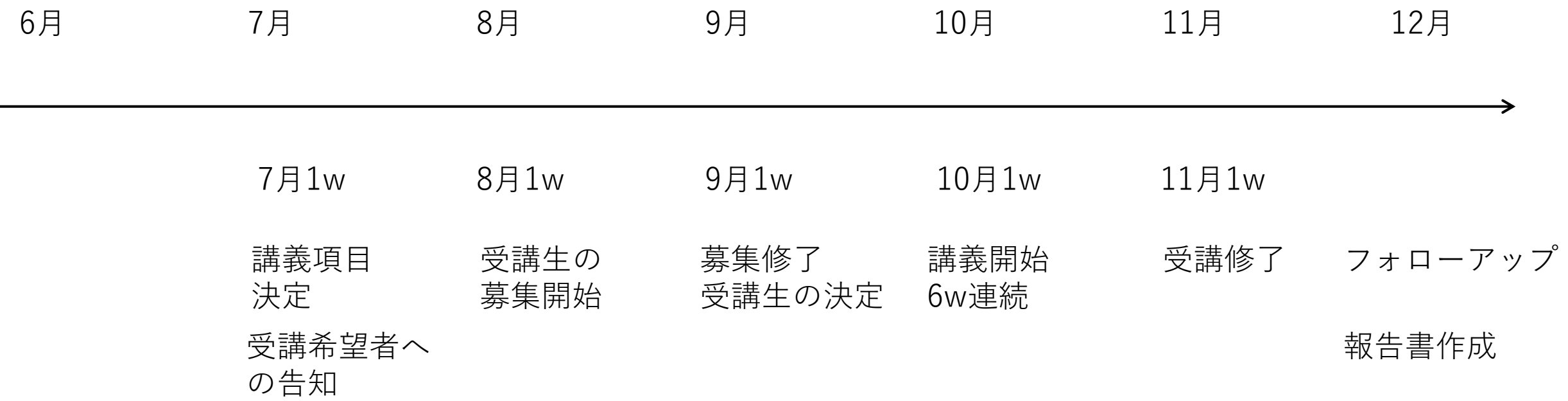
体制（令和6年度パイロットプロジェクト時の想定）

- クローズドな講習の実施及び更なるブラッシュアップを行う。併せてニーズの探索、外部講師・他大学との連携可能性も模索。※黒い太字部分がパイロットプロジェクトにて検討すべき事項



*1：対面やオンデマンドを含む

スケジュール想定（パイロット時のスケジュール）



（年度の事情により変更がある可能性がある）

講師のアサイン状況及び進め方

戦略人材育成に必要な教育要素

専門人材：
専門人材となる
専門知識
(規格作成)

分野ごとの標準化人材育成						
例	モビリティ	食品	バイオ	農業	通信	システム安全
標準化ないしは無形資産プロセスを実践するために知っておくべき社会規範及び知識（規範形成を主導するために必要な学問）						

※専門人材（システム安全分野）は長岡技術科学大学を想定

戦略人材：
標準化人材の
基盤知識

※戦略人材は筑波大学を想定

国際関係論・制度論の視点	・日本の法規制と欧米の法規制の違い ・国際地政学 ・法規制と任意規格との関係
経営学・会計学の視点	・経営組織論（制度と組織の関係性等） ・技術経営論、経営戦略論 ・会計情報分析（企業価値評価等）
知的財産権の視点	・知財と標準の違い ・知財マネジメント（オープン＆クローズ戦略）
標準 / 規格・認証の視点	・国際規格の形成プロセス ・国際規格の活用（適合性評価も含む）

プログラムの実施想定

- ニーズ等の調査を踏まえつつパイロットで実施するプログラムの組成・検証するが、現状赤字部分の講義からプログラムを組成し、検証を実施する予定。

必要となる講師の想定

筑大企法学G
+外部講師

■ 講義①…国際関係論・制度論

- ・日本の法規制と欧米の法規制（適合性評価の観点も含めて）/日本における社会規範（規制、規格等）と企業活動
- ・法規制と任意規格との関係/国際地政学

筑大経営学G
+外部講師

■ 講義②…経営戦略/組織論

- ・経営戦略論/経営組織論

筑大経営学G
+外部講師

■ 講義③…会計（無形資産経営）

- ・会計/開示（企業価値に知財（無形資産）/標準化（企業間関係/業界活動）を絡め込むための考えていくための素養。
特にIR開示や投資家との対話）

日本弁理士会等
外部講師

■ 講義④…知財・標準

- ・知財面でのオープン＆クローズ、標準化面でのオープン＆クローズ
- ・標準の活用/企業法との関連

実務経験者等
外部講師

■ 講義⑤…知財標準（ケース事例）

- ・オープンクローズ戦略のビジネス事例

外部講師

■ 講義⑥…規格形成・認証

- ・規格作成/認証ビジネス戦略/適合性評価

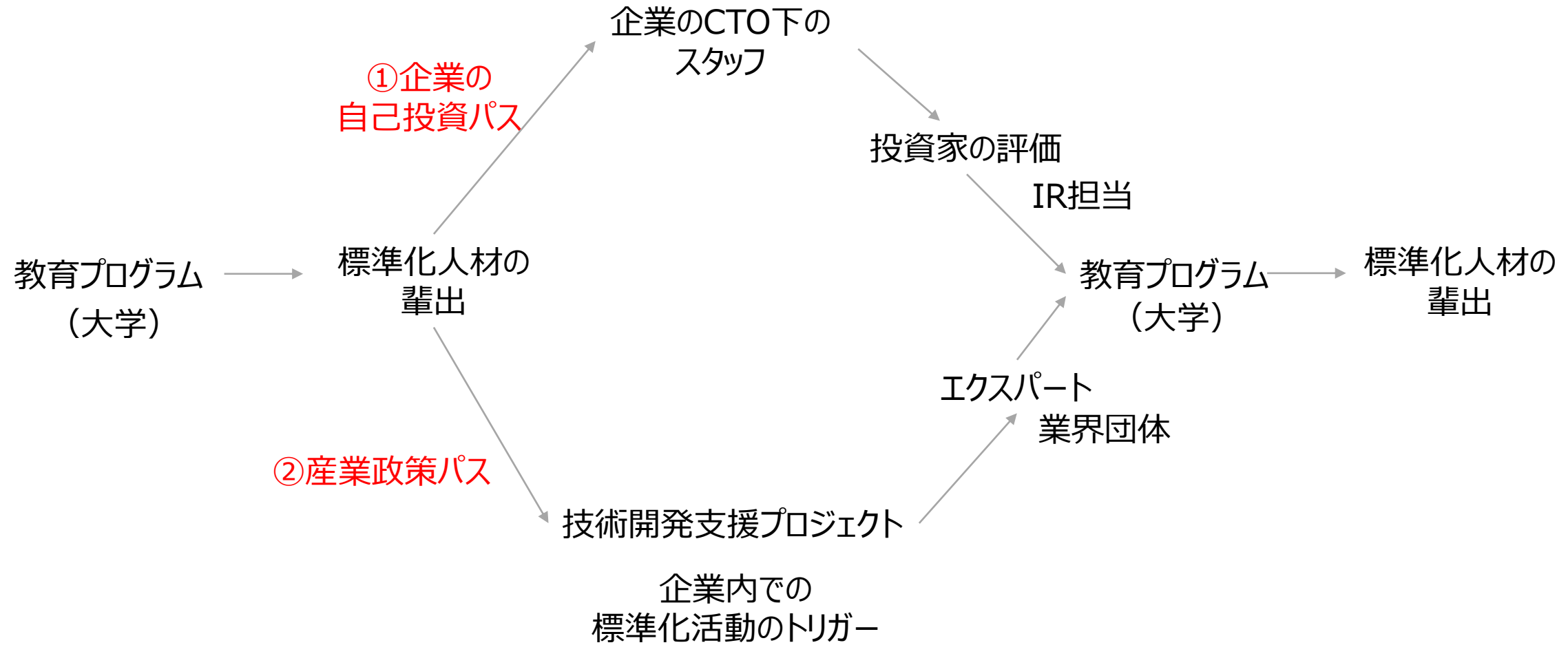
現在①－⑥の世話人教員+講師の手配中
①②③④についてほぼ決定

⑤⑥について交渉中

受講者確保に向けた取組予定（つくばツインスパークの取組含む）

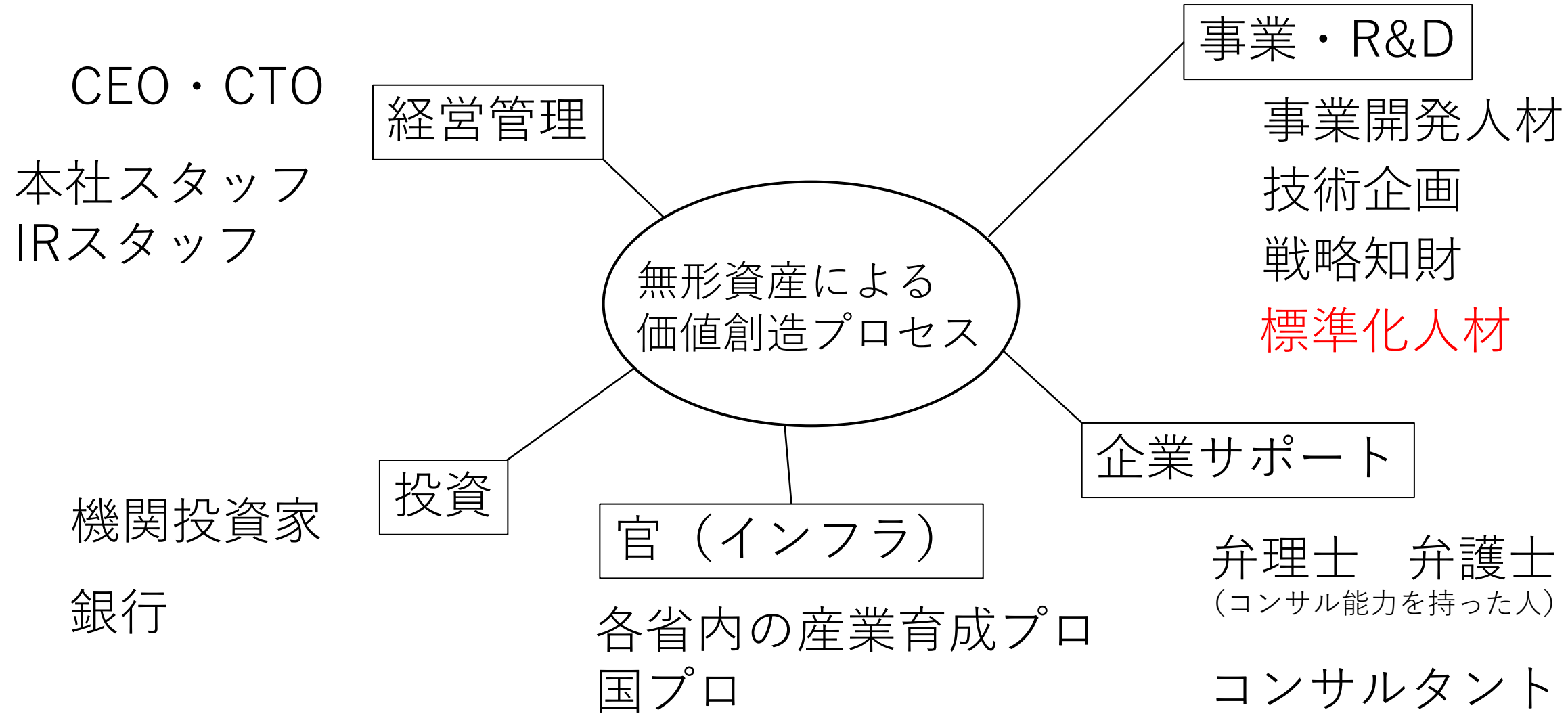
標準化人材の教育と活躍のイメージ

受講生の人材イメージ
①企業の中のCTOのスタッフ
②産業政策の中のPM



標準化人材（中核と応用）を考慮した人材育成

<大学のコースでの人材育成のイメージ>



受講者ニーズの把握・プロモーション施策（産業界との連携）

